



イチゴのアザミウマ類の発生に注意!



県の病害虫防除所では、3月中旬現在、イチゴの花におけるアザミウマ類の寄生率が平年より高く、また、発生地点率も平年よりやや高い～高い状況となっていることから、3月27日付けで病害虫速報 https://www.pref.ibaraki.jp/nour/insuisan/nosose/byobo/boujosi dou/yosatsu_joho/documents/sokuhour5-4.pdf を発表し注意を喚起しています（以下病害虫速報を一部抜粋）。

気象予報によると向こう1か月の気温は平年より高いと予想され、発生を助長する条件であるため、防除を徹底してください。

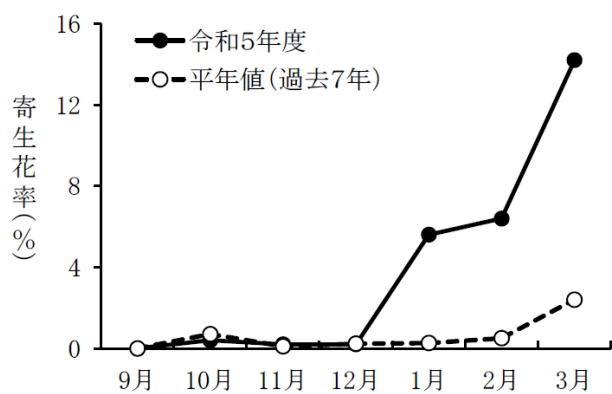


図1 アザミウマ類の寄生花率の推移

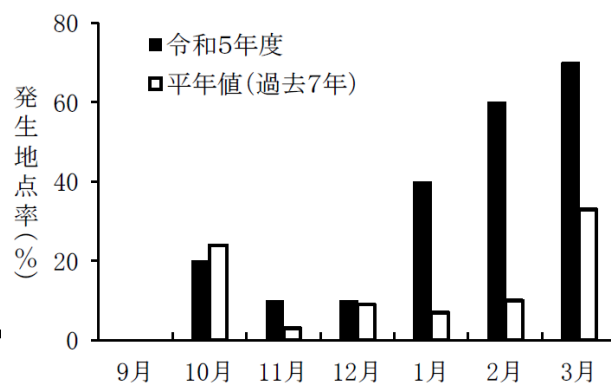
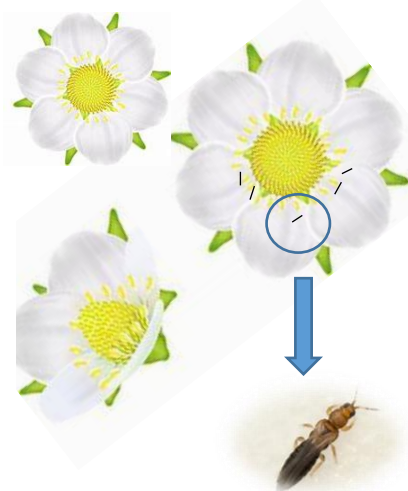


図2 アザミウマ類の発生地点率の推移



防除対策


- ① アザミウマ類は果実被害を発生しやすいため、花をよく観察し、発生している場合は下表を参考に速やかに薬剤防除を行う。
- ② 防除の際は、薬液がアザミウマ類の寄生部位である花にかかるよう十分な量で丁寧に行う。また、気門封鎖剤以外については、薬剤抵抗性の発達を抑えるため、IRAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。なお、薬剤散布は、古い下葉を除去してから行うと効果的である。
- ③ ミツバチや天敵を使用する場合は、薬剤の影響日数等に十分注意する。
- ④ 青色粘着トラップ  を 10a 当たり 100 枚以上設置すると、アザミウマ類の密度低減に有効である。



表1 イチゴ アザミウマ類の主な防除薬剤

(令和6年3月29日現在)

薬剤名	希釈倍率	使用時期 / 使用回数	ミツバチ※	分類
グレーシア乳剤	2,000倍	収穫前日まで / 2回以内	1日	30
コテツフロアブル (対象: ミツバチアザミウマ)	2,000倍	収穫前日まで / 2回以内	10日	13
ディアナSC	2,500~5,000倍	収穫前日まで / 2回以内	3日	5
ファインセーブフロアブル	1,000~2,000倍	収穫前日まで / 3回以内	1日	34
ベネビアOD	2,000倍	収穫前日まで / 3回以内	1日	28
マッチ乳剤	1,000~2,000倍	収穫前日まで / 4回以内	1日	15
モスピラン顆粒水溶剤	2,000倍	収穫前日まで / 2回以内	1日	4A
モベントフロアブル	2,000倍	収穫前日まで / 3回以内	1日	23

注1) 各表のミツバチ※は、ミツバチへの影響の目安を茨城県病害虫防除指針(令和6年版)及び農業メーカー資料より抜粋しましたが、天候、施設内の環境条件により日数が前後することがあり、注意が必要です。

注2) 分類欄には、IRACコードを記載しました。同一分類(コード)は作用点が同じなので、連用は避けてください。

- 農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。
- 営農 News は J A 全農いばらきホームページでもご覧になれます。